

⑫

小山内暉山翁之碑

明治29年（1896）12月 建立

「建立者」門人等による発起人会

「題字・書」撰 黒瀧儀任、書 本間覃山

【解説】

小山内暉山（おさない きざん 1811～1894）は、津軽藩士で廃藩置県後に青森県師範学校等で書道を教えた明治時代の書家です。多くの門下生があり暉山の功績を顕彰するために建てられた石碑です。石碑の書を書いたのは弟子であり、共に師範学校で書道教師を務めた本間覃山（ほんまたんざん 1857～1909）です。弟子である覃山の石碑は、後に小山内暉山の隣に師弟を並べ建立されています。



【石碑に彫刻されている文字】

（前面）

小山内暉山翁之碑

（裏面）

先生諱建善字俊淳號暉山津軽藩世祿之士御為書院番以先生明通武家典故擢為近侍備顧問數十年多所獻替性不喫酒茶煙菓唯函書是好凡武門之道芸儀則及武器之製造用灑無書不洩獵為秘不探窮與之語雖專門武人多驚異之又嘗鑑裁新製甲冑發其有偽工人為失祿而無怨言其明識皆從該博來也最精於書道能為八体而論其筆法又善摸古今百家之文字

様而飛動成態尚日書不在字樣在不失法失法則非字也不如無書也常好講說文說六書推及字書之訛謬分割辨斥鑿々中窾聽者躍然如出於己意所著有運筆法傳統習字須知臨池筌曰本筆道抄習字歌習字書法千字文等先生以文化八年生於弘前以明治廿七年歿焉享年八十四明眸皓齒不如老者為人不喜雜談好靜居抄錄雖在劇務退而脫袴則対机至夜日以為常癡藩之際俄無職務乃顧誨弟子以自樂及門者無慮四百有餘人然多其字法非師字樣者也故受其衣鉢者較寡矣盖上堂七人入室九人先生云今皆欲建碑報本使余銘之

銘曰

八十四歲

壽不由業

四百餘生

有聞欲躍

建碑報本

生死皆樂

何以護之

於戲天爵

明治廿九年十二月

水斎 黒瀧儀任撰
門人 本間覃山 謹書

石工 亀岡良吉